



桃一通信

No.6 8 2

桃井第一小学校
(3390)3178(代)

令和5年 12月号



親と子の関係

校長 高橋 浩平

インフルエンザが蔓延し、学級閉鎖も出る中、11月の桃一劇場、なんとか全学年が公演できました。お休みの人の分までフォローしたり、内容を少し変更したりしながら、どの学年も本当によくがんばりました。改めて、子供たちの潜在能力の高さに驚かされました。大きな拍手を送りたいと思います。ご参観、どうもありがとうございました。

さて、最近佐々木正美さんの『この子はこの子のままでいいと思える本』（主婦の友社）を読みました。佐々木さんは精神科医で、残念ながらすでにお亡くなりになっているのですが、自閉症の療育や、児童の発達支援等を長年にわたり続けてこれ、私自身もご指導いただいたことがある先生です。

その本の冒頭に「親になって数年の人が子育てじょうずなはずがありません。誰もが未熟なままで未熟な子どもを堂々と育てていけばよいのです」と書かれていてはっとしました。学校では「もっと親が指導してもらわないと困る」「親は何も言わないのかな」とつい教員もいいがちになります。でも、自分を振り返っても「親」は最初からベテランではなく、試行錯誤の末、かかわっているのが現実なんですよね。この本でも「わたしは保育士をしており、研修で佐々木先生のお話を伺ったことがあります。にもかかわらず母親としてはうまくいきません」という相談に対して、佐々木先生は「保育士でも学校の先生でも小児科医でも同じです。『先生』として子どもと向き合うのがじょうずな人でも、自分の子どもにはうまくいかないという人は案外多いものです。精神科医の子どもが精神を病むというケースもあるのですから、『保育士なのに』とご自分を責める必要はまったくありません。それは別話です」と答えています。私もまったくそうだなあ、と思います。

その佐々木先生の言葉で強く印象に残った言葉がありました。それはこんな言葉です。

わたしは長く臨床の現場で、多くの親子に会ってきました。その経験から確実に言えるのは、親がしかればしかるほど、子どもはしかられる子になっていくということです。親が心配すればするほど、心配な行動を続けるのです。それはもう確実です。その悪循環を断ち切らなければ、子どもの情緒を安定させることはできません。その場合、どちらが先にがまんするのか。答えは明白です。大人が先です。大人が先に変わるしかないのです。

異論のある方もいるでしょう。私たち教員も、子どもが悪さをするとつい叱ってしまいます。でも佐々木先生の言うように叱り続けた結果、悪循環に陥っているという関係も多く見てきました。佐々木先生はこうも言っています。

幼児期を過ぎても、少し大人びた顔をするようになって、「この子の喜ぶ顔を見ることが、わたしの最大の喜びなのだ」と、そういう気持ちで子育てをしていれば、子どもは必ずお母さんが大好きになります。／しかし現実には「親が喜ぶことを子どもにしてもらおう」とする親が多いのも事実です。子どもが小学生くらいになるとなおさら、「もっとしっかりしてちょうだい」「自分のことは自分でやってね」「勉強も習い事もしっかり」と、親は過剰に期待しがちです。もちろん親は子どもに期待するものですし、「こうであってほしい」と願うものです。しかし、その気持ちをできるだけ抑えて、ありのままのこの子がかわいいのだと、そう思って子育てなさってほしいと思います。

自らの反省も込めて言いますが、「なかなか難しいけど、そうなんだろうな」と感じます。子どもの小学校時代は6年間しかありません。自身がそうであったように、これから子供たちの親離れは進んでいきます。今でしか関われないことを、親として「楽しむ」、そんな余裕が私たち大人にこそ必要なのでしょうね。2学期も残りわずかとなりました。12月もどうぞよろしくお願いいたします。

12月の生活目標 「学校をきれいにしよう」

桃一小では、感染対策のため、放課後にグループを分けて清掃を行っています。自分たちが使う教室はもちろん、廊下や靴箱も清掃しています。また、4年生以上の学年は音楽室や図工室など専科の教室、体育館などみんなが使う場所も担当しています。

12月の生活目標は「学校をきれいにしよう」です。ゴミが落ちていたら拾う、自分から進んで掃除をするなど、当たり前のことですが、しっかりと身に付けることができるよう指導していきます。そして、子供たちが自分たちで掃除をし、気持ちよく学習、生活できる環境を整えていけるようにしていきます。

2学期も残りわずかです。一年間の汚れをすっきり落として、気持ちよく冬休みを迎えることができるようにしていきます。

(生活指導部)

後期委員会の委員長より

桃一小には12の委員会があります。後期委員会の委員長に抱負を聞きました。

代表 学校生活が楽しくなる笑顔あふれる桃一を目指して頑張ります。また、中心となって「つなげる桃一」を作り上げます。	運動整備 私はみなさんが気持ちよく過ごせるような環境をつくりたいです。委員長として責任をもち活動していきます。	放送 みんなに楽しんでもらえる放送を流せるように、委員長として積極的に取り組んでいきたいです。
音楽 音楽委員は主に行事の時に演奏をする委員会です。ぼくは、委員長として全力で引っぱっていきたいです。	保健 6年生最後の委員会、委員長としての責任をもつ事、全力で取り組む事を大切にしていきたいです。	掲示 私達は、学校が華やかになる掲示を作ります。みんなが楽しい気分になれるように委員長として頑張ります。
集会 みんなの笑顔をつくるために楽しい集会を考えます！委員長は2回目なので1回目より笑顔で頑張ります！！	図書 今回の図書委員会で一番がんばりたいのは集会での発表です。委員長として話し合いをまとめていきたいです！	理科環境 理科環境委員会のみんなで、植物や、生物が長生きできるように、一生けんめいがんばっていきます。
新聞 毎月全学年が楽しめるような内容の新聞を書き、委員長として、みんなを引っ張っていきます。	給食 給食委員会は栄養黒板を書いたり完食賞を届けたりします。委員長としてみんなを引っ張っていきたいです。	美化 美化委員会委員長として校内を今よりもっときれいにするための取り組みを考えて実行していききたいと思います。





伝統文化授業・地域との連携

10月から11月にかけて、各学年で伝統文化の授業を行いました。1年生は「昔遊び」、2年生は「折り紙」、3年生は「井草ばやし」、4年生は「阿波踊り」、5年生は「落語」、6年生は「百人一首」を体験しました。伝統文化の授業は、毎年、学校支援本部に地域から人材を探してもらい、講師として来ていただいています。子供たちにとってより豊かな学びになるように、講師の皆さんと教員、学校支援本部で事前に打ち合わせを行って、当日の授業に臨みました。子供たちからは、「伝統文化についてもっと知りたい。」「またやってみたい。」といった感想が出ました。

本校は、これまでも地域の方々からさまざまな形で協力を得ながら学校運営をし、教育活動を行って来ました。これからも地域と学校が協力・連携して、子供たちの学びを支えていきます。

(教務部 伝統文化授業担当)



たてわり班

たてわり班活動では、6年生が企画立案をし、他学年と一緒に遊ぶ交流をしています。今年の桃一小のスローガンは「つなげる桃一」です。どのようにすれば下級生とつながりをもつことができるか、一緒に楽しい交流の場がつかれるかを考え、工夫した取り組みを行っています。

例えば、「みんなを名前と呼ぼう！」です。下級生との関係づくりに向けて、目線を合わせながら名前を呼び、コミュニケーションができるように意識しています。名前を覚えることでお互いの距離感も一気に縮まり、仲良くなれると子供たちも実感し、取り組みは大成功でした。他にも、全員が楽しめる遊びの工夫や、アイスブレイクのためのミニゲームの発案など多くのアイデアが子供たちから出てきます。

6年生は、たてわり班遊びの前後で打ち合わせを行い、良かった点や課題を共有して次回に生かそうと努力しています。今後も6年生を中心に子供たちが試行錯誤しながら「つなげる桃一」を実現できるよう支援していきます。

(特別活動部 たてわり班担当)

